

経常収支比率の推移

○経常一般財源等（臨時財政対策債含む）

（単位：千円、％）

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比較	
	決 算 額	決 算 額	決 算 額	決 算 額	決 算 額	増減額	増減率
地方税	10,735,818	10,911,660	11,100,882	11,006,083	11,206,530	200,447	1.8
地方譲与税	204,025	210,868	212,598	216,834	216,740	△ 94	△ 0.0
利子割交付金	18,695	9,994	10,863	9,153	8,708	△ 445	△ 4.9
配当割交付金	61,347	69,673	65,046	94,692	87,882	△ 6,810	△ 7.2
株式等譲渡所得割交付金	56,480	45,916	79,189	119,574	70,122	△ 49,452	△ 41.4
地方消費税交付金	1,483,144	1,442,500	1,785,140	1,970,416	2,117,223	146,807	7.5
ゴルフ場利用税交付金	8,231	11,195	18,049	21,112	20,237	△ 875	△ 4.1
自動車取得税交付金	73,741	43,706	6	-	727	727	皆増
自動車税環境性能割交付金	-	12,771	26,030	27,536	32,810	5,274	19.2
法人事業税交付金	-	-	38,629	88,012	115,991	27,979	31.8
地方特例交付金等	106,772	254,376	141,361	187,186	162,780	△ 24,406	△ 13.0
普通交付税	2,249,465	2,341,327	2,360,059	3,386,575	3,955,318	568,743	16.8
交通安全対策特別交付金	10,228	10,302	11,119	10,665	9,621	△ 1,044	△ 9.8
使用料・手数料	103,532	105,087	107,566	105,771	104,505	△ 1,266	△ 1.2
財産収入	-	-	-	3,817	2,379	△ 1,438	△ 37.7
諸収入	6,588	7,647	7,003	3,029	6,759	3,730	123.1
臨時財政対策債	1,251,900	1,098,700	1,003,500	1,674,700	479,100	△ 1,195,600	△ 71.4
合 計	16,369,966	16,575,722	16,967,040	18,925,155	18,597,432	△ 327,723	△ 1.7

○経常経費充当一般財源等

（単位：千円、％）

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比較	
	決 算 額	決 算 額	決 算 額	決 算 額	決 算 額	増減額	増減率
人件費	4,595,671	4,449,915	4,554,256	4,563,333	4,713,493	150,160	3.3
物件費	3,239,146	3,330,242	3,376,118	3,455,554	3,631,176	175,622	5.1
維持補修費	456,033	445,086	361,618	320,929	284,702	△ 36,227	△ 11.3
扶助費	2,306,873	2,412,106	2,410,093	2,315,839	2,634,123	318,284	13.7
補助費等	898,375	954,393	865,175	839,858	832,515	△ 7,343	△ 0.9
公債費	2,332,331	2,228,238	2,094,454	2,126,104	2,189,622	63,518	3.0
投資及び出資金・貸付金	69,336	55,335	46,408	-	-	-	-
繰出金	1,881,816	1,953,815	2,080,972	2,180,455	2,242,382	61,927	2.8
合 計	15,779,581	15,829,130	15,789,094	15,802,072	16,528,013	725,941	4.6

○経常収支比率

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
経常収支比率	96.4%	95.5%	93.1%	83.5%	88.9%
県平均	92.1%	93.1%	91.2%	86.6%	-
県内順位	50位	39位	35位	14位	-

経常収支比率 = (経常経費充当一般財源等)

÷ (経常一般財源等 + 減収補てん債特例分 + 臨時財政対策債) × 100

義務的経費（人件費・扶助費・公債費の計）などの経常的な経費に対して、地方税・地方交付税等の経常的な一般財源収入がどの程度充当されているかを表す指標です。この比率が低いほど経常一般財源の残余が大きく、臨時の財政需要に対して余裕を持つことになり、財政構造が弾力的であると考えられ、比率が高いほど、財政構造の弾力性が失われつつあると考えられています。

